

授業改善書

科目名	乳幼児心理学
担当者	岩崎桂子

授業の概要

胎児期から乳幼児期に至る発達について、成育歴、身体・運動、感覚知覚・認知機能の発達、感情、対人関係、自己、言語発達などについて講義し、個人の発達や適応について理解できるように指導する。

とくに、乳幼児を取り巻く環境や親子関係・子ども同士の関係のあり方と心理的発達について、従来の発達理論をふまえて講義する。必要に応じて、行動観察、ロールプレイ、グループディスカッション等、演習課題を取り入れ、多様な対象の理解や彼らを取り巻く人的環境・物的環境との関連を理解できるように進める。乳幼児期の発達や適応に関する十分な知識を身につけ、対象への理解や支援に活用できる力を養う。

授業の問題点

選択科目ということで、履修者が確定するまでに時間がかかり出席管理が複雑になってしまった。真面目な学生が多く、真摯に授業に取り組んでいるが学生が積極的に発言する姿はあまり見られなかった。自由な発言を引き出すように会話の中で質問、指名等を行ってはみたが、効果は薄かった。

学生の授業満足度

ほとんどの項目において平均点であった。しかし、予習・復習、質問や発言の点数は平均をやや下回っていた。

この点においては今後の課題と思われる。

しかし、履修者登録をしている学生（登録しているけど授業に参加していない学生も含む）の半数しかアンケートの回答を行っていないので真面目に授業に取り組んでいた学生の回答と思われる。その他の学生の意見も気になるところである。

授業改善の課題と方策

授業改善の課題と方法について一点目は、授業において自由な発言、自発的な発言を行う事に慣れていないのでは無いかと考えられる。二点目は、実際に子どもと接する機会が少ない学生が実際の子どもの姿を想像する事が困難な野では無いかと思われた。

選択科目だからこそ、学生が積極的に発言をできるように声かけの工夫を行う必要がある。また実際の子どもの姿を理解しやすいように DVD の視聴機会を多く取り入れる必要を感じた。

その他

授業改善書